



平成 27 年 7 月の園だより



7月7日は七夕です。じんじつ（正月）、じょうし（桃の節句）、たんご（端午）、たなばた（七夕）、ちようよう（重陽（菊の節句）は、昔から五節句といわれ、それぞれにちなんだ伝説や行事があります。

七夕は星まつりで、天の川をはさんで東西に位置するアルタイ星とベガ星をけん牛（ひこ星）、織姫（織姫星）と呼んでいます。この二人は仲が良すぎて仕事をしなくなったため、天の神の怒りに触れ、別れ別れになってしまったのです。しかし、それから二人は懸命に働き、一年に一度7月7日カササギの橋の上で会うことが許されたと伝えられています。



大自然の中でお泊り保育

山県郡北広島町のログハウス“順源会・山の家”で年長組さんが、学生ボランティアのお兄さんお姉さんと一緒にお泊り保育を楽しみます。農園に行って、とうもろこしを収穫したり、グループでポイントラリーや、夕食のカレーライス作りなど、貴重な楽しい経験を沢山します。また夜にはキャンプファイヤーをした後、虫の声や葉っぱの揺れる音を聞きながら露天風呂に入ったり、スイカを食べたり、花火をして遊びます。

保護者の皆さんから離れ、大自然の中いろいろな世代の人と過ごすことで、協力することの大切さや、自律心を育む機会となればと思っています。



お友だちと力を合わせて頑張るぞ！



自然がいっぱい！



いっぱい遊んだ後はぐっすり夢の中…！

「子どもの思いを大切にする保育」



6月13日（土）の運動会では、準備もとより、進行、後片付けにいたるまで、お手伝い、ご協力をいただきありがとうございました。おかげさまで、当日は梅雨雲の隙間をぬって何とか天候にも恵まれ、また、大きな怪我もなく無事に終えることができました。ご協力に心より感謝申し上げます。

開会あいさつの際に、「させる保育ではなく、子どもがしたくなるような保育を保育目標に掲げております。新学期早々からの早期練習や長時間の練習はあえて行っておりません。従って、見栄え的には今一つのところがあるかもしれませんが、楽しく頑張ってきた過程や姿をご覧ください。」と申させていただきました。

保育園では、保育（教育+養護）が行われており、教育の部分については幼稚園、認定こども園と何ら違いはありません。「教育＝education」の語源は「引き出す」ことです。子どもの一人ひとりの可能性を引き出すことが教育です。従って、「させる保育」ではなく、子ども自らが「したいと思える保育」が大切となってきます。

見栄えを良くすることは簡単です。手取り足とり丁寧に何度も繰り返し指導すればよいのです。しかし、その場面には、やってみようという思いではなく、させられているという思いが強いのではないのでしょうか。保育の基本は、子どもは「群れ」の中で育ち、泥んこまみれになって遊び、時には泣き、痛い思いもし、それらを通し

て五感（視・聴・嗅・味・触の5つの感覚）が鍛えられ、社会性が備わっていくことであり、私たち大人の役目は、子どもから好奇心ややる気を引き出すことにあると考えます。様々な「あそび」（体験や経験）を積み重ねることで、心情や意欲が高まり、豊かな心が育まれていることが子どもの育ちの前提であり、「させる」はあくまで子どもが興味を示したときに、意図的に求める分だけでよいかと思えます。

保育者は、子どもたちの「やってみよう」、「こうしてみよう」という気持ちをどう膨らませていくのかということを中心に考えています。こうしたい、やってみようという「動機づけ」は大人、保育者の大切な役割となります。大人のこう育ててほしい、こうあってほしいという思いも大切ですが、あくまで無理強いするのではなく、そこに向けて「褒めながら」上手く「動機づけ」をしていきたいと思えます。

7月下旬には、年長さんのお泊まり保育（野外活動保育）があります。旧芸北町にあるログハウスに出かけてきます。どんなことに興味をもちやってみようと思うのか？その経験を通じてどう成長してくれるのか？とても楽しみにしています。

これからの時期、様々な行事が続きます。行事は成長を表現する場でもあります。お子さんの自らの生きる力を信じ、遅く成長をしていく姿をこれからもあたたかく見守って欲しいと思えます。

子育て応援コラム

《子どもの頑張りを認める》

私たちは、子どもによく「がんばれ」と言います。

大人でも、がんばれと言われて「がんばろう！」と思える時もありますが、逆によけいづらくなることもあります。これ以上がんばれないくらいがんばっている時に、「がんばれ」と言われると、今のがんばりを否定されたような気がするからです。

子どもも同じで、子どもなりに保育園などでがまんもし、家でも怒られながらも頑張っているかもしれません。それを「あなたなりにがんばったね」と言ってもらう方がよけいやる気が出るのではないのでしょうか。ですから「がんばれ」と言うよりも「がんばっているね」と言う言葉を使ったらどうかと思っています。

「ほめる」より「認める」。わざわざ褒め言葉よりも、現在やっていることを見つけて「がんばっているね」と認めていく。それによって子どもの自己肯定感が育つのではないかと思います。

また、お金や物を与えるほめ方についてきかれることがあります。本人の頑張りを認めている点ではいい面もありますが、それによって逆に「お金や物をもらわないと動かない子ども」にしてしまう心配があります。

私たちが本当に育てたい子どもは、お金や物をもらわなくても、人の喜びをわが喜びとして生きていく子どもではないのでしょうか。そのためにお金や物は必要ありません。ただ「ありがとう!」「たすかったよ!」と笑顔で伝えるだけで十分ではないかと思います。

真生会富山病院診療内科 明橋大二

保育関係紙

「子どもとの関わり方ワンポイント」より

